
データ利活用の強化による業務DX推進のご提案

～JP1/AJS3※とASTERIA Warpを連携したソリューションのご紹介～

※JP1/Automatic Job Management System 3

2023年4月
株式会社日立ソリューションズ

■ こんなことにお困りではありませんか？

DXの推進を求められており、データの利活用を進めたいが・・・

- ✓ システムに散らばるデータの収集が進まずに困っている。
- ✓ クラウドやその他サービスからのデータ取得で困っている。
- ✓ 複数のシステム間のデータ処理の実行制御で困っている。

■ 日立ソリューションズでこう解決します！

- ✓ 日立のジョブ管理製品「**JP1/Automatic Job Management System 3 (JP1/AJS3)**」と、アステリア社のデータ連携ツール「**ASTERIA Warp**」を連携し、様々なシステムから様々なデータを取得し利活用する基盤を提供します。
- ✓ JP1/AJS3が提供する機能により、会社のカレンダーに従った複雑な処理の実行や、クラウドサービスの機能と連携した処理などお客様が求める様々な処理を実現します。

データ利活用の共創が生み出す新しい価値

デジタル・トランスフォーメーション（DX）によって、デジタル技術とデータ（情報資産）の活用が進み、経済社会の構造的変化、産業構造や就業構造の変化に直面しつつある。企業にとっても事業環境が劇的に変化することで、**新たな付加価値の創出・獲得が急務となっているほか、イノベーション促進のための組織や人材の変革も不可欠であり、更なる競争力の強化が求められている。**

経済産業省「データ利活用のポイント」：2020年6月

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/chizai/chiteki/pdf/datapoint.pdf>

DXにおけるデータ利活用

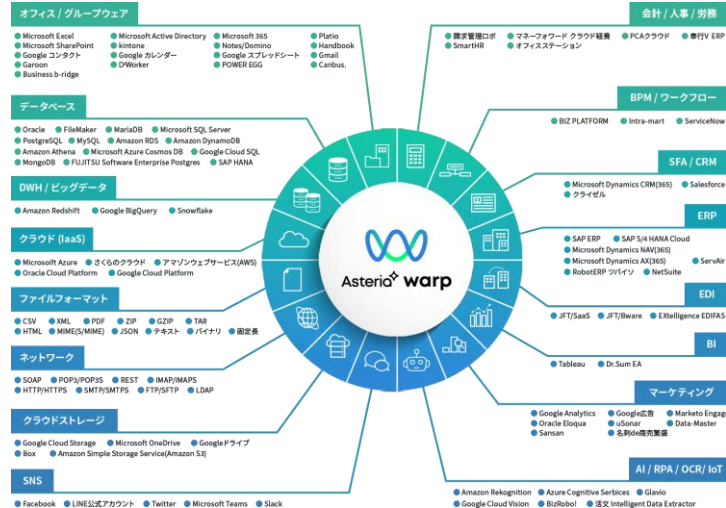
例えば、営業管理システム上の営業活動情報や商談履歴と販売管理システム上の売上履歴を元にターゲット顧客を分析するなど、**DX実現をするうえでデータ利活用は必須である**と言えます。



ASTERIA Warpは国内シェアNo.1のデータ連携ソフト

ASTERIA Warp (アステリア株式会社)

豊富な連携アダプタによって、社内の各種システムやクラウドサービス上に存在する様々なデータを接続、連携する国内シェアNo.1のデータ連携ソフトウェアです。

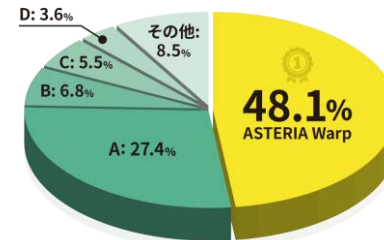


100種類を超えるデータ・サービスに接続可能

ASTERIA Warpは「データ連携ソフトウェアのデファクトスタンダード」です！



9,800社以上の企業での導入実績



テクノ・システム・リサーチ「2022年ソフトウェアマーケティング総覧 EAI/ESB 市場編」

16年連続シェアNo.1を獲得！

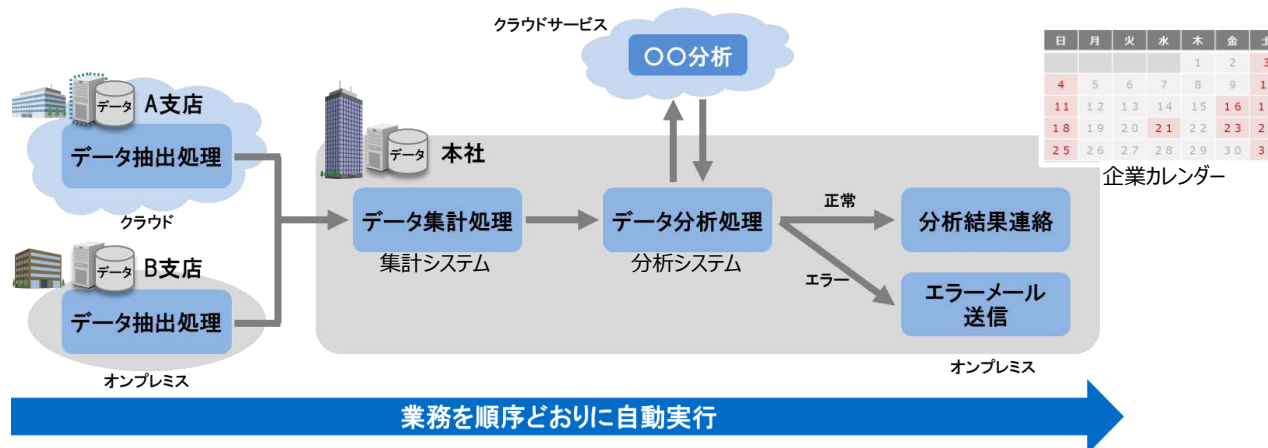
一方で、システムではデータ連携に留まらず、連携を含んだ一連の業務として一環した制御が求められています。

そこで、JP1の出番です。

JP1/Automatic Job Management System 3 (JP1/AJS3) は

クラウドサービスを含めた複数のシステム上の業務を順序どおりに実行させたり、実行結果によってその後の処理を自動的に選択して実行する事で、**複雑に連携するシステムの業務全体を制御するツール**です。

(ただし、JP1/AJS3だけでは、システムやサービスからのデータ連携はできません。)

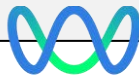


JP1/AJS3は**ASTERIA Warpをより効果的に使用する機能**を持っています。
JP1/AJS3×ASTERIA Warpを連携すると・・・

JP1/AJS3とASTERIA Warpを連携するメリット

ASTERIA Warpは・・・

- ・社内のシステムやクラウドサービス間で容易にデータ連携が可能
- ・ただし、システムをまたぐデータ処理は制御は不可



Asteria[◇] warp

JP1/AJS3は・・・

- ・クラウドサービスを含めたシステムをまたぐ処理の制御が可能

JP1

「JP1×ASTERIA Warp連携」

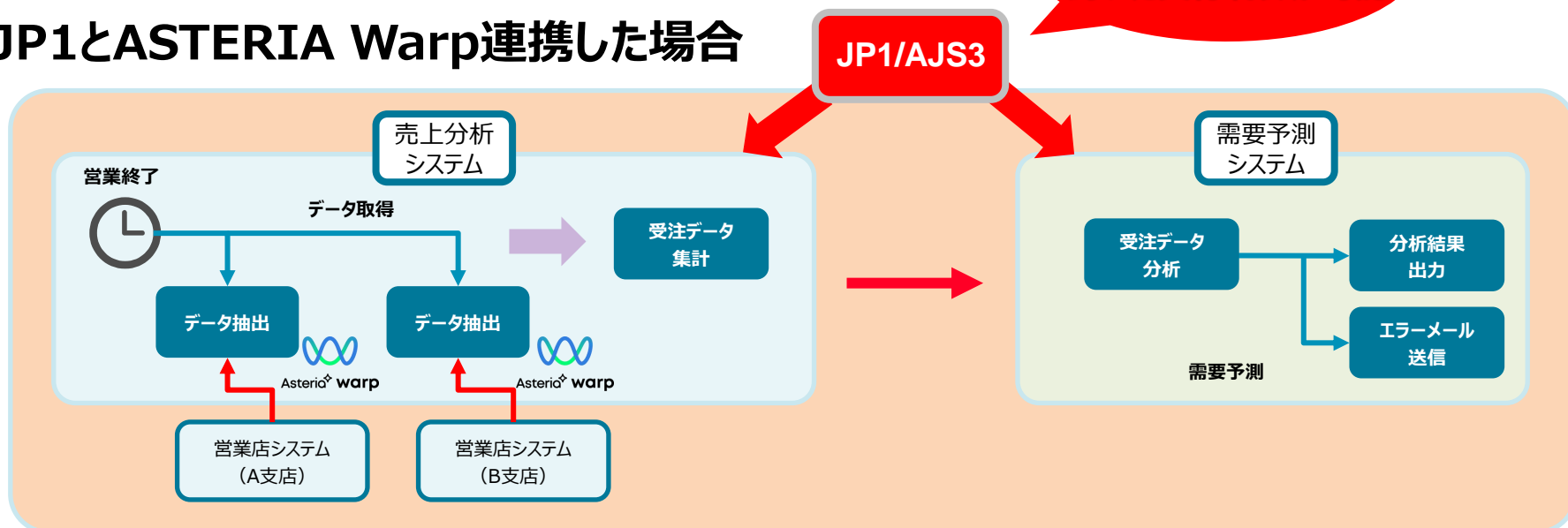
- ・社内のシステムやクラウドサービス間で容易にデータ連携が可能
- ・クラウドサービスを含めたシステムをまたぐ処理の制御が可能

JP1/AJS3×ASTERIA Warp連携によって、様々なデータを様々なシステムで利活用するシステムが実現できます。具体的な例で示すと・・・

ASTERIA Warpのみで使用した場合



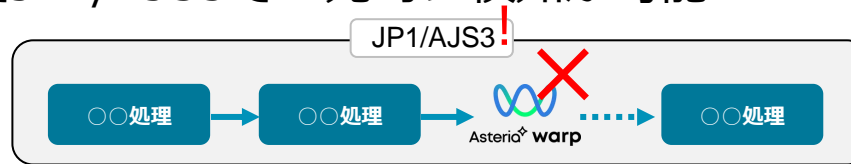
JP1とASTERIA Warp連携した場合



JP1/AJS3×ASTERIA Warp連携は他にもこんなメリットがあります。

処理の監視

- ASTERIA Warp側の異常が発生した場合
ASTERIA Warp内のフローが検知した異常（データ異常、接続先DBの異常など）も他の処理と合わせてJP1/AJS3で一元的に検知が可能

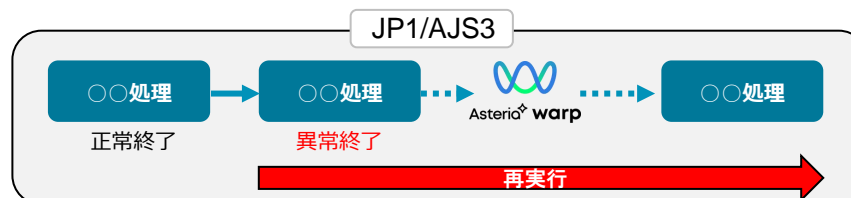


- JP1/AJS3の遅延監視機能
想定時間内に処理が開始・終了しない場合の通知が可能

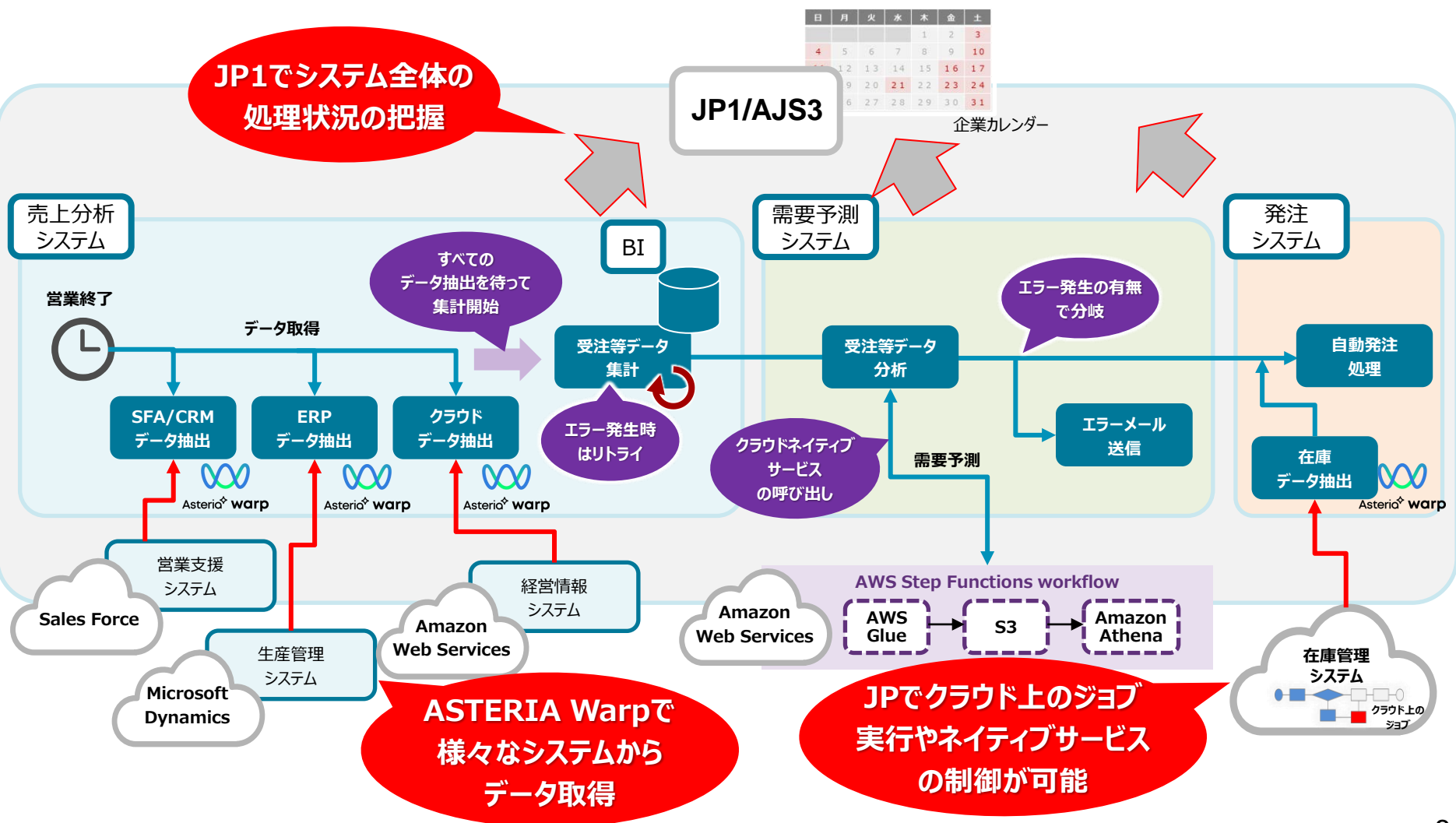


障害時の再実行判断

- 処理の途中でサーバが再起動した場合など
どこまで処理が動いていたか、どこから再実行すべきかを早期に判断が可能



- ・ JP1でシステム全体の処理把握、前処理・後処理の実行が可能
- ・ JP1でクラウドサービス上のジョブ、AIなどのネイティブサービスの制御が可能



◆お問い合わせ先

問い合わせフォーム（ASTERIA Warp）

<https://www.hitachi-solutions.co.jp/inquiry/products/form/?id=asteria>

安心してご使用ください。

- ・日立ソリューションズにはJP1とASTERIA Warpの経験豊富な技術者がおり、実績も多数あります。

- ・ASTERIA Warpは、JP1 Certified※を取得しています。安心して連携できます。

※JP1 Certified（JP1連携製品認定制度）JP1が提供する製品群とシームレスに連携できるハードウェア/ソフトウェアを認定する制度です。

https://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/jp1/partner/details/dev_jp1_ASTERIA_Warp.html

Asteriaはアステリア株式会社の登録商標です。
JP1は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

END

データ利活用の強化による業務DX推進のご提案
～JP1/AJS3とASTERIA Warpを連携したソリューションのご紹介～